

平成 27 年度
いわき明星大学事業報告書

(平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで)

学校法人いわき明星大学

平成 28 年 5 月

1. 基本方針

いわき明星大学は、学苑の建学の精神に基づき、「全人教育に基づいた、地域社会に貢献できる人の育成」を教育目標としています。この教育目標を達成するため、地域が必要とする人材とは何かを明確に踏まえ、その人材養成を着実にを行うことを目指し、以下の教育方針を掲げて事業を展開しています。

(いわき明星大学の教育方針)

- 体系的なキャリア教育をとおして、社会人として必要な知識や技能を取得できる教育
- 地域社会に貢献する意欲・態度を養う教育
- 基礎学力、コミュニケーション能力、忍耐力を備えた、自ら主体的に考え行動できる人の育成
- 修得した知識や技能を統合および有効に活用し、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる人の育成
- 課題発見能力と課題解決能力のある質の高い職業人の育成
- 地域の人々の健康を率先して守ることのできる自立した薬剤師の育成

2. 新たないわき明星大学の歩みに向けて（法人設立及び看護学部の設置）

いわき明星大学は、教育目標「全人教育に基づいた、地域社会に貢献できる人の育成」を徹底し、より一層地域に根ざした大学として存立するために、平成 27 年度に学校法人明星学苑から分離・独立する形で、本部を地元いわき市に置く学校法人いわき明星大学を設立しました。さらに、東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故の発生によって地域の要望が極めて強くなっている医療系人材の養成を目的として、新たに看護学部を設置することとし、平成 28 年 3 月に設置認可申請を行いました。

いわき明星大学は、建学の理念をより具現化し、教育目標を達成していくための新たな大学の姿を示していくこととなります。

(1) 学校法人いわき明星大学の設立

学校法人いわき明星大学の設立は、平成 27 年 3 月に文部科学省に認可申請を行い、8 月 31 日に認可を受け、9 月 11 日に法人登記を完了しました。

新たな法人の寄附行為に定めた目的は「教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、地域社会に貢献する人を育成する」ことを謳っています。運営体制としては、「一法人一大学」の体制となり、法人と大学がより一体化した運営が可能となりました。

(2) 看護学部設置認可申請

地域における医療系人材養成の強い要望と、福島県浜通り地方でのそれに応え得る高等教育機関の不足を踏まえ、平成 29 年度の開設を目途に、看護学部設置認可申請（入学定員 80 人）を平成 28 年 3 月に行いました。看護学部は、幅広い教養と

豊かな人間性を養い、看護専門職として必要とされる基本的な知識・技術・態度に基づいた看護実践能力を修得するとともに、将来にわたり看護の向上に資するための能力を養い(すなわち ESD: Education for Sustainable Development を実践し)、人々の健康の保持増進に寄与することのできる看護師の養成を目的としています。さらに、より多くの地域貢献を果たすため、保健師の養成課程も整備します。

平成 28 年度からは、看護学部専任教員として就任予定の 8 名の教員が着任し、具体的な看護学部の開設準備を進めていきます。

また、施設整備としては、学生募集を停止した科学技術学部の校舎である 6 号館を転用し、看護学部の専用施設として、看護実習室を始めとした改装整備を行います。

3. 重点事業

(1) 教育の質向上に向けた教育改革の実施

① 学生の学修行動調査の実施（目標：7 月実施）

学生の授業および授業外の学修時間や学修時間外の行動などの実態を把握し、教育成果の向上に向けた施策の基礎資料とするため、全学生を対象に 7 月 10 日～9 月 24 日の期間で、学内の学修支援システムである manab@IMU を活用して学修行動調査を実施し、回答率は 60% でした。調査結果の分析・報告を行い、教育改革に向けて活用しています。

② 学生の満足度調査の実施（目標：9 月実施）

授業や施設、環境などについての学生の満足・不満の実情を把握し、大学運営の改善に資するため、全学生を対象に 9 月 12 日～9 月 19 日の期間で、manab@IMU にて学生の満足度調査を実施し、回答率は 43% でした。調査結果の分析・報告を行い、満足度の向上に向けて、改善策を検討しています。

③ 学修総合支援センターの開設と活動

学生の学修活動に対する直接的・間接的な支援を行い、学力の向上と定着を目指すとともに、就職力の強化を図ることを目的として、平成 27 年 4 月に「学修総合支援センター」を開設しました。主な活動実績は以下のとおりです。

【リメディアル教育部門】

- ・英語運用能力向上プログラムの一つとして、「iKnow for Schools」（以下「iKnow」と言います。）を導入しました。iKnow は、脳科学と認知心理学に基づいた反復学習メソッド、マルチデバイス対応、学習履歴や記憶強度を視覚化できることを特徴とした、オンライン学習プログラムです。
- ・文章の正確な意味や文法を意識せず、大まかな意味で把握して読み進める読書法の「多読プロジェクト」を実施しました。

- ・昼休みの時間を利用した、ネイティブの英語教員と英会話を実践する「IMU ENGLISH CHAT ROOM」を実施しました。
- ・数学の基礎学力向上を目的に、教養学部1年生を対象に、公文式学習を導入しました。
- ・レポートや小論文の作成指導、エントリーシート作成等の就職支援を目的に、「IMU 国語相談室」を開設し、学外の専門講師による文章作成支援を実施しました。



(写真は昼休みの時間を利用してネイティブの英語教員と英会話を楽しむ学生の様子)

【教職総合支援部門】

- ・「Vertical Education Course for Teaching Occupation and Recruitment」（通称「VECTOR（ベクトル）」）と名付け、グループで様々な教職における課題を討議する「教職フォーラム」「教職カフェ」を実施しました。
- ・教員採用試験の専門知識を着実に身につけるための「専門知識スキルアップ講座」を定期的で開催しました。

【IMU ビジネスカレッジ部門】

- ・公務員を目指す学生を対象に、筆記試験対策、模擬面接、模擬試験等を中心に「公務員対策講座」を実施しました。
- ・学生のキャリア形成支援の一つとして、「MOS 講座（マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト）」「簿記検定試験対策講座」「SPI 試験対策講座」を実施し、検定試験の合格者には資格取得奨励金として、検定料の一部を補助する制度を導入しました。

【初年次教育・キャリア教育部門】

- ・教養学部の初年次教育の中核である、「フレッシュャーズセミナー1」及び「フレッシュャーズセミナー2」において、アクティブラーニングを中心に、本学独自のプログラムを策定し、実施しました。

④ FD・SD 研修会

全教職員を対象に FD・SD 研修会を年 2 回実施しました。また、平成 27 年度は全教職員を対象としたハラスメント防止研修会及び新任教職員を対象とした学修支援システムの研修会も実施しました。

- ・ 9 月 10 日（木）

第 1 回 FD・SD 研修会「経営改善に向けて SWOT 分析をもとに本学が取るべき戦略とその実質化を図る」（参加率：88%）

- ・ 3 月 9 日（水）

第 2 回 FD・SD 研修会「いわき地域で必要とされる大学になる道を切り開いた

めに」(参加率：86%)

・3月4日(金)

ハラスメント防止研修会(参加率：56%)

・6月17日(水) 新任教職員対象

学修支援システム manab@IMU 利用研修会(参加率：78%)

⑤ ICT活用

・学修支援システム manab@IMU や英語教材の利用を目的として、4月に新入生全員へタブレット PC を配付しました。学生1人あたりの平均利用時間は30.9[時間/月](1時間に1回以上学内ネットワークへ接続した状態を1時間として集計)、薬学部38.9[時間/月]、教養学部22.1[時間/月]でした。

・manab@IMU を利用しての学修記録の蓄積とその成果に対しての振り返り学修、個別指導の徹底については、49科目で学生1人あたりの利用回数が100回を超え、授業だけでなく授業時間外の課題や予習・復習にも活用されていることがわかりました。

⑥ 「トビタテ！留学 JAPAN」地域人材コース採択

文部科学省が推進している平成28年度前期(第4期)「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN」に関し、2名の応募があり、2名とも合格となりました。1名は、人文学部表現文化学科2年の女子学生でオーストラリア・タウンズビルへ6週間、もう1名は、人文学部現代社会学科2年の男子学生で、同じくオーストラリア・タウンズビルへ5週間の留学を平成28年の夏に行く予定です。

(2) 入学者の確保

① 志願者数(目標：582人以上)

平成27年度の志願者数は、教養学部140人、薬学部242人であり、全体で382人となりました。

② 入学者数(目標：285人以上)

平成28年度の入学者数は、教養学部99人、薬学部79人であり、全体で178人となりました。各学部の入学者定員充足率は、教養学部は49.5%、薬学部は87.8%となりました。

③ 募集活動状況

i) 夏期休暇中、新入生31名が母校を訪問し、近況を報告しました。オープンキャンパスでは、来場者(高校生)の利便性を高めることを目的として、7地区において無料送迎バスを運行し、更に高校から大学までの直通バスも6本運行しました。しかしながら、受験対象である高校3年生の来場者数は平成26年度から12%の減少となりました。

(平成26年度) (平成27年度)

・オープンキャンパス来場者数（高校3年生） 244人 → 214人

- ii) オープンキャンパスとは異なった、本学の授業日に学生と一緒にキャンパスライフの体験してもらう「大学体験・見学会」を10月・11月の2回実施しました。10月は33名、11月は17名の高校生が来学し、実際の授業や在生とのキャンパスランチ、学修総合支援センターでの資格支援体験を通じた交流を通して、日々の飾らない本学の魅力を強く伝えることができました。

教養学部では、福島県内を重点地区として、高校訪問を中心に高校内進学ガイダンス参加や「一日総合大学」（高校生が本学キャンパスで授業を受ける高校行事）等を実施し、「地域における学び＝本学の魅力・特色＝福島県内における就職」を訴求しました。結果、県内入学生を10%増加させることができました。

また、薬学部においては、薬剤師国家試験の合格率や薬学部の特長である「イグナイト教育」を基軸に広報を実施しました。県内高校のみならず、県外高校に対しても近接する他の薬学系大学との「教育成果の差」を明確にすることで、県外入学生が25%増加しました。

(平成27年度) (平成28年度)

・教養学部県内入学者数 70人 → 77人
・薬学部県内入学者数 33人 → 44人

- iii) 教養学部吹奏楽特待AO入試を拡大し、全国大会出場経験者を中心に、吹奏楽技術の高い生徒を獲得することができました。

(平成27年度) (平成28年度)

・教養学部吹奏楽特待AO入試入学者数 5人 → 16人

- iv) いわき明星大学ホームページを大幅にリニューアルして、スマートフォンやタブレットでも閲覧しやすい「フラットデザイン」型を採用しました。

また、アニメーションキャラクターを継続し、SNSを中心とした募集広報を展開しました。リニューアル後からのセッション数は、平成26年度と比較して8.31%増加しました。

④ 学報リニューアル

学報の在り方を大幅に見直し、学内ステークホルダーに対して発信する「いわき明星大学学報『Gazette』」と、学外ステークホルダーに対して発信する「フリーペーパー『Walk around』」をそれぞれ2回発刊しました。

⑤ 出前講座実施状況

高校における課外進路企画に参画し、延べ35校（平成26年度21校）で出前講座を実施しました。

(3) 学生生活の充実

① 離籍率（目標：4.2%以下）

平成 27 年度の離籍率は科学技術学部 11.7%、人文学部 5.1%、薬学部 5.6%となり、全体で 5.8%となりました。

② 勤労奨学生制度

平成 27 年度から、学生の社会性の向上と経済的支援を目的に、学内での実務体験を伴う給付型の奨学金制度「いわき明星大学勤労奨学金制度」を導入しました。平成 27 年度は、通常の勤労奨学生 20 名と、平成 28 年 1 月～3 月までの臨時採用の勤労奨学生 7 名の合計 27 名が大学事務局の各部署において、補助的な業務を行いました。

③ NGA（ニュージェネレーションアシスタント）活動

平成 27 年度より、学生の力で大学や地域を活性化することを目的として、自らを高めたい、学生生活を積極的に楽しみたいと考える学生たちが組織する学生団体「NGA」が発足しました。

約 40 名の学生が所属し、オープンキャンパスの企画や授業サポート等、大学行事への参加、学内イベントの運営・広報、学内外でのボランティア等、多方面で活動を行いました。

④ ボランティアセンター

平成 27 年度は 114 名がボランティア登録を行い、活動件数 16 件延べ 130 名の学生が学内外でのボランティア活動に参加しました。

また、東日本大震災後より実施している明星大学との「合同ボランティア」は継続して取り組んでいる本学近隣の仮設住宅への訪問活動を 2 回実施しました。



(写真は本学近隣の仮設住宅を訪問し、マッサージなどのケアをしている学生ボランティアの様子)

⑤ ユニバーサルデザインセンター検討

学長からの諮問により、「ユニバーサルデザインセンター」の設立について設立検討委員会が 6 月より検討を開始し、合計 6 回の委員会を経て、規程の制定、障害学生支援委員会の設置、学部における支援体制の明確化、事務組織における対応

の明確化、予算等を含めて、ユニバーサルデザインセンターの設置について学長へ答申しました。

答申においてユニバーサルデザインセンターは、いわき明星大学障害学生支援規程の具現化のための組織として、事務局内に設置し、①障害のある学生及び家族からの相談を受け付け、内容を検討して障害学生支援委員会へ提案する、②支援内容について障害のある学生及び家族との合意形成を図る、③支援内容について教員や事務局、必要に応じて外部組織等との連絡・調整を図る、④障害者への理解を深める啓発活動及び具体的な支援を行える学生サポーターを育成する、⑤学内施設・設備のバリアフリー化の提言を行うなどの業務を遂行する部署としました。

また、これらの業務の担当者として「障害学生支援コーディネーター」を置くことが提言されました。今回の答申を受けて、平成28年度にユニバーサルデザインセンターを設置することが決定されました。

⑥ 吹奏楽団

教養学部吹奏楽特待 AO 入試で 5 名、その他 5 名が入団し、団員数は平成 26 年度の 22 名から 26 名と 4 名増となりました。各種コンクールでの実績は、「全日本吹奏楽コンクール第 58 回東北大会」に 2 年連続福島県代表として出場し銀賞を受賞しました。「全日本アンサンブルコンテスト第 43 回東北大会」にも 2 年連続福島県代表として出場し銅賞を受賞しました。



(写真は全日本吹奏楽コンクール第 58 回東北大会に福島県代表として出場した吹奏楽団)

(4) 薬剤師国家試験結果

① 薬剤師国家試験合格率 (目標 : 95%以上)

平成 27 年度の第 101 回薬剤師国家試験において、本学の合格率は 98.67%と全国の薬系大学 73 校 (東京大学を始めとした国公立大学や医科大学・医療系大学、薬学部単科大学などすべての薬系大学) の中で、第 1 位の合格率となりました。

学生一人ひとりの状況に合わせたきめ細かい教育及び試験対策を行ったことにより、本学の新卒者の合格率は 100%となる結果を出しました。

(5) 就職実績の向上

① 就職率 (目標 : 95%以上)

平成 27 年度の就職率は科学技術学部 100%、人文学部 95.4%、薬学部 96.2%であり、全体で 96.4%となりました。

② インターンシップ状況

派遣学生数が平成 26 年度と比較して大幅に増加しました。

	(平成 26 年度)		(平成 27 年度)
・ 科学技術学部	24 人	→	32 人
・ 人文学部	44 人	→	60 人

③ キャリア教育の充実

「キャリアデザイン 3」の授業では、「自己分析」、「エントリーシート・履歴書の書き方」、「業界・企業研究」、「ビジネスマナー」、「大業界研究セミナー」、「上級生の就職活動体験を聞く」、「グループディスカッション」、「面接の仕方」、「大模擬面接会」等を実施しました。未受講者については、就職支援担当が同様の添削、模擬面接を行いました。

④ 就職サポート

ゼミ教員、キャリア教育担当教員及び就職支援担当が一人ひとりと面談し、就職活動状況の確認を行い、就職先の案内、助言等を行いました。

内定が得られていない学生には、電話連絡で確認を行い、本学で受け付けた求人を紹介しながら早期に内定が得られるよう、全学を挙げて取り組みました。

⑤ 就職関連イベントの充実

外部から人事担当者を招聘し「大模擬面接会」、「業界研究セミナー」を開催に加え、「服装と身だしなみ講座」、「女子学生のためのメイクアップ講座」、「就活（就職活動）マナー講座」、「業界、企業研究・合説（合同企業説明会）の歩き方」等の講座も行いました。また、科学技術学部及び人文学部 3 年生の保護者向けの「就職説明会」を開催し、現在の就職活動の状況についてガイダンスを行いました。

合同企業説明会は、学内で科学技術学部及び人文学部を対象に 3 回、薬学部を対象に 1 回行いました。学外で実施される合同企業説明会にも積極的に参加しました。

(6) 30 周年に向けた知名度・認知度の向上

① 大学ノベルティの商品化（目標：3 月）

平成 29 年度の開学 30 周年に向け、平成 28 年度も引き続き検討します。

(7) 地域への教育支援の推進

① 地域連携協議会の開催（目標：2 回）

7 月 21 日に設立総会（参加 165 名：産業部会 85 社中 74 社 104 名、教育部会 24 校中 11 校 13 名、学内 48 名）、11 月 10 日に名刺交換会（参加第 I 部 57 社 71 名、第 II 部 55 社 70 名、第 III 部 47 社 58 名、学内 41 名）を行いました。

② 市民への生涯学習の機会提供

生涯学習推進の一環として、行政等が主催する各種講座に講師を派遣しました。本学が持つ教育リソースを活かした内容として、薬や健康に関する講義を多く展開し、いわき市をはじめ、白河市、北茨城市、南相馬市等において、12 講座を開講し、合計 397 名が受講しました。

③ 公開講座状況

公開講座は開学以来毎年開講しており、通算 56 回目を開催しました。平成 27 年度は 6～7 月の春季、11 月の秋季の 2 期に亘って 3 講座ずつ、合計 6 講座を開講しました。

春季は医療に特化した講座を展開し、学外の有識者を招聘した特別講座として開講しました。数多くの医療裁判を手がけた弁護士の安福謙二氏に始まり、医療過疎と産科が抱える問題点に光を当てた福島県立医科大学地域産婦人科支援講座教授の本多つよし氏、公的医療保険制度と大災害の観点から地域医療の課題を掘り下げた日本医師会常任理事の石井正三氏の 3 名に登壇いただきました。

秋季は元教授を含む本学教授陣による講座で、「豊かさ」をテーマに、薬学部と教養学部からバラエティあふれる 3 講義を展開しました。

年間を通じた受講者は 324 名で、特に医療関連の講座に人気が集まりました。

④ 施設貸し出し状況

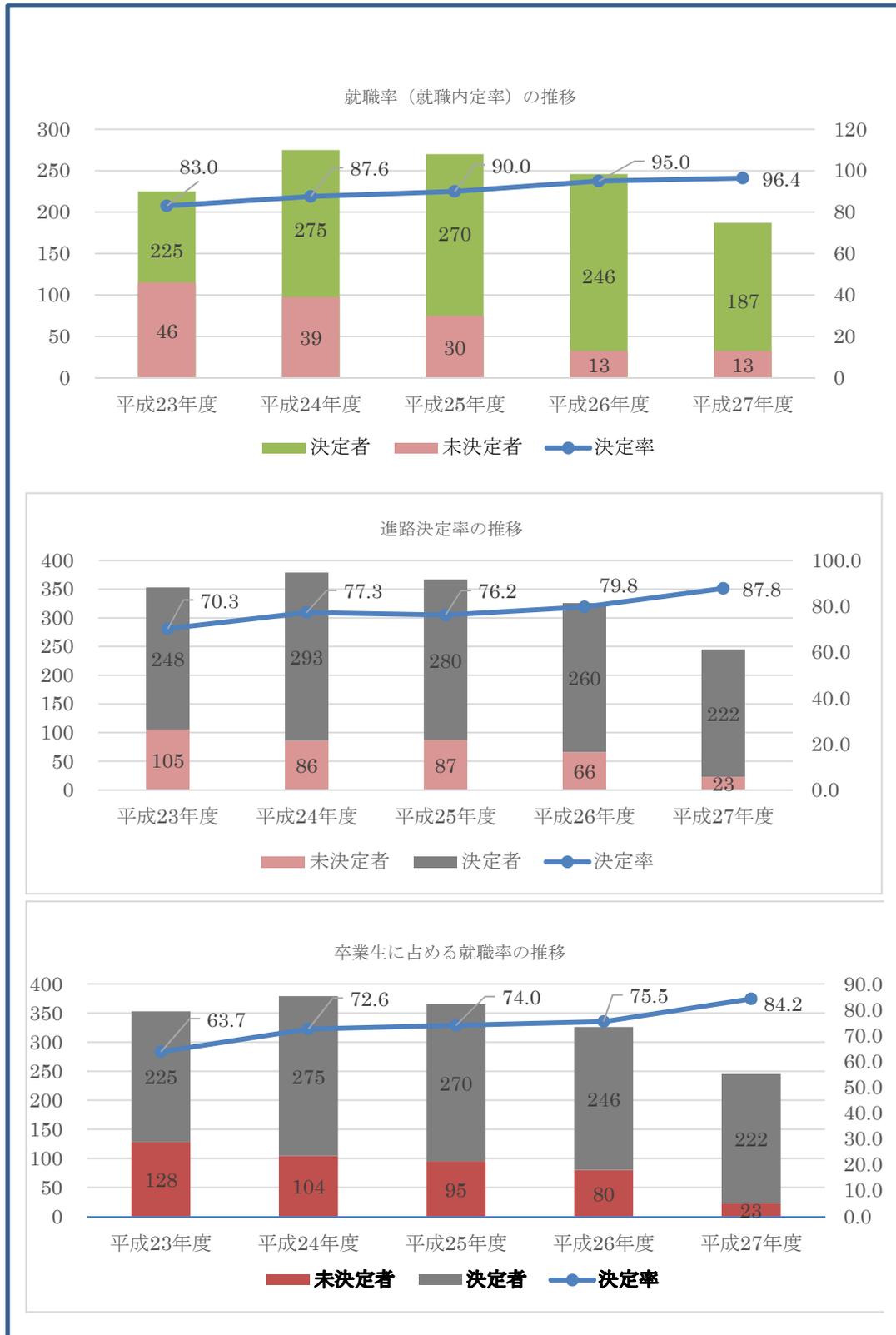
いわき市に誘致された大学として地域に対し、講堂、教室、体育施設等を開放しました。貸出実績は、児玉記念講堂 14 件、教室 52 件、グラウンド 46 件、体育館 7 件、テニスコート 11 件、野球場 1 件で、年間の利用者数は 38,934 名になりました。中でも、元プロ野球選手による野球教室が開催された「いわき大交流フェスタ」や吹奏楽のソロコンテスト「福島県管弦打楽器ソロコンテスト」、「富岡町合併 60 周年記念事業」等には大勢の来場者に学内が賑わいました。

〈以下余白〉

いわき明星大学 ロードマップ
平成 23 年度～平成 27 年度 経年推移表

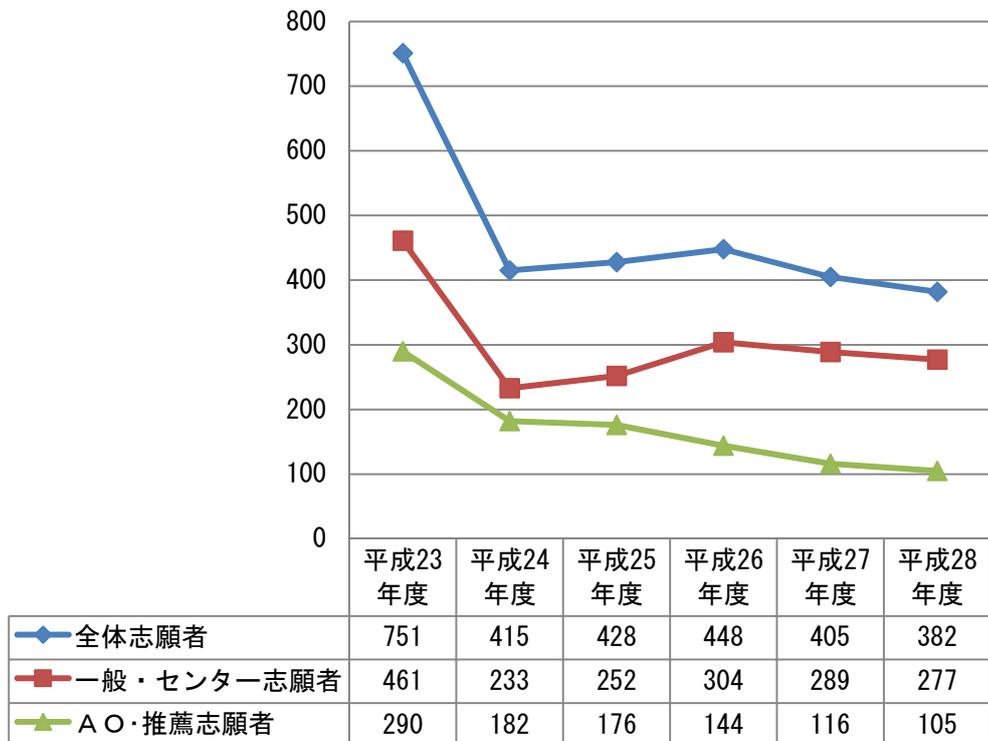
- ・ロードマップ (1) 進路決定率
- ・ロードマップ (2) 志願者数

ロードマップ(1) 進路決定率

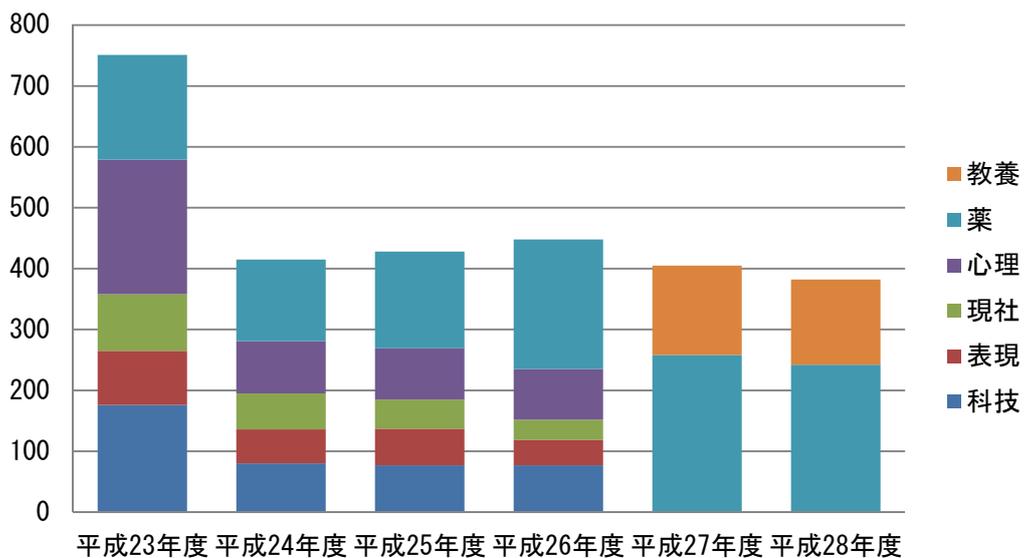


※就職率=就職決定者数/就職希望者数 ※進路決定率=進路決定者数/卒業生数 ※卒業生に占める就職率=就職決定者数/卒業生数

区分別志願者数の推移



学科別志願者数の推移



卒業生の進路・就職状況

1. 就職・進学状況等

平成27年度卒業生総数は、231名でした。その内、大学院等進学者が5名、就職希望者数は194名。就職決定者数は183名で、就職率は96.4%でした。

2. 卒業・修了、学位授与数等の状況

学 部 学 科 等			学位授与者数
学 部	科学技術学部	科学技術学科	40
		電子情報学科	0
		生命環境学科	0
		計	40
	人文学部	心理学科	51
		現代社会学科	40
		表現文化学科	37
		計	128
	薬学部	薬学科（6年制）	54
	合計		
大 学 院	理工学研究科	物質理学専攻修士課程	2
		物理工学専攻修士課程	1
		物質理工学専攻博士課程	0
		計	3
	人文学研究科	日本文学専攻修士課程	0
		日本文学専攻博士課程	0
		英米文学専攻修士課程	1
		社会学専攻修士課程	1
		臨床心理学専攻修士課程	4
	計	6	
	大学院 合計		
学部・大学院 総計			231

3. 主な内定先企業（平成27年度）

薬学部の主な内定先は、国立大学法人山形大学医学部附属病院、いわき市立総合磐城共立病院、公益財団法人ときわ会、医療法人清仁会シミズ病院グループ、石巻市立病院、土浦協同病院、クオール株式会社、株式会社マツモトキョシ、日本調剤株式会社、株式会社ツルハ、株式会社カワチ薬品、株式会社くすりのマルトなどです。

科学技術学部の主な内定先は、東京電力株式会社、株式会社いわき民報社、公益社団法人ボイラークレーン協会、向陽電気工業株式会社、株式会社東日本計算センター、福島県中学校教員（理科）などです。

人文学部の主な内定先は、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、株式会社東邦銀行、下郷町役場、株式会社マルト、社会福祉法人福島県福祉事業協会、株式会社江東微生物研究所などです。